

故 河野 正 の あ し あ と



「誕生～医師を目指した時代」大正3年1月1日の“日の出”とともに福岡市中央区にて生を享けました。幼い頃から、正義感が強く人情に厚く、活発な正少年は早くから勉学に目覚め、現在の福岡高校を卒業後、後の久留米大学医学部（当時の九州医療専門学校）に入学しました。医学生時代の河野正は、文武両道を旨とし、剣道4段、剣道部主将としても活躍しました。

「軍医～病院開設」戦争を前にしてなすすべもなく、召集のもと軍医として戦争を体験しました。戦争が終わり、九死に一生を得て復員した正は、机上の学問より現実の医療と痛感し昭和21年、母親の出身地である糟屋郡篠栗町

に診療所を開設しました。その思いを達成するように、昭和26年には診療所を“医療法人済世会”とし、文字通り世の中を救うため、弱者といわれる人たちに寄り添う医療のあり方を確立する病院づくりに邁進しました。



「県会議員～衆議院議員」「困っている人がいたら救え、患者を断ってはいけない。」



この言葉こそ正義感と優しさに満ちた正の信条です。戦後の傷跡もまだ癒えない時代、悲惨な敗戦を体験したのものとして、平和な社会を維持することの大切さを実感した正は、医療のほかに、まだ自分ができることがあるかもしれないと考えはじめました。そして周囲の薦めもあり、昭和26年福岡県県議会議員に立候補し、初当選を果たしました。

その4年後の昭和30年、当時としては異例の41歳という若さで衆議院議員に初当選するという快挙を成し遂げました。以来通算8

期当選という実績をつくりました。この間、医療・福祉の専門家として、衆議院文教委員会理事や社会党労働委員会理事、内閣社会保障制度審議会委員、日本社会党社会労働部長、衆議院環境保全・公害対策特別委員長などを歴任します。

「その後の活躍」以来、永きにわたり政界で様々な活躍を見せます。ある時は、世界各地の医療社会保障制度の実態調査のため国会から派遣され、東南アジア諸国、ヨーロッパ諸国を訪問。さ



らに、昭和44年には、ニューギニア地区の遺骨収集団調査のため、政府から調査団長として派遣されました。また、党派を超えた国会内の親友であり、後の総理大臣となる橋本龍太郎代議士が同行しました。昭和63年には社会党代議士会長、平成元年には社会党衆参両院議員会長として、当時起こった土井たか子委員長の下での、いわゆる“マドンナブーム”を支えました。そして、このころ“精神衛生法”から人権を守り医療・福祉の充実を図るための法律“精神保健法”へ改定することに全力を尽くしました。



引退後は、再び医療の現場に戻り、医療法人済世会理事長として、精神医療の第一線で活躍しました。これからも医療法人済世会は、名誉理事長 故河野 正の意思を受け継ぎ、精進していく所存です。

著書・訳書の紹介



福祉の窓
ピンクの“バラ”
はいつ開く



福祉の窓パート
またまた
ピンクの“バラ”



福祉の窓パート
ピンクの
“バラ”の今



福祉の窓パート4
とんちゃんの
福祉を斬る



ピンクの“バラ”パ
ートV
地域医療五十年の
提言



社会保険労務士法
の解説



睡眠・催眠・夢
(訳書)

その他 「麻薬の恐怖」「志免売山の背景」「国有財産の行方」「失対の母と子らの文集」等